

いのちを学ぶ

南九州大創立50周年

< 4 >

南九州大の都城キャンパスは2009年4月、改編した環境園芸学部(環境園芸学科)を設置し、都城市に開学した。高鍋町から移転され、03年度に完全撤退した旧宮崎産業経営大の都城キャンパス跡地を利用。誘致を進めた同市が開学費用の一部を支援する「公私協力方式」で20億円を補助した。

都城キャンパス

も教育学科が新設されたのは10年4月。学目的がより分かるように名称が「人間発達学科」から変更された。教員養成を主な目的とする同学部の最大の魅力は、保育士資格と幼稚園、小学校、特別支援学校教諭の免許が取得できること。科目の選択次第では最大三つの資格・免許が取れる。学生の教育実習を支援する独自の「連携学校・園方式」も特色の一つ。付属の小学校などがないため、同市のほか、近郊の三股町や鹿児島県豊於市

地域連携で教員養成



改編した環境園芸学部を高鍋町から移転し2009年に開学した南九州大都城キャンパス。1年後には人間発達学部も新設された

などの教育委員会と連携協定を結び、学生の実習先を確保している。3年次には、半年ほど前から定期的に実習先を訪れ、事前に子どもたちや教諭と触れ合うことで、より

スムーズに実習ができるように配慮している。地域との連携や子育て支援にも積極的に取り組む。同学部には付属機関として「子どもの学び研究所」「子育て支援センター

」。「環境教育センター」を設置。協定を結ぶ学校や園の教諭らを研究員に委嘱し、学生の指導などを担ってもらっている。両センターでは、未就学児らの親子を対象に運動教室や子育て相談、工作教室などを開くほか、環境をテーマにした学習会も開催。育児に関する学生たちの絶好の学びの場にもなっている。

同学部長の澁澤透教授(64)は「日ごろから連携を取り、地域と密接な協働を図っている。連携学校・園方式は、学生たちが事前に学校に慣れることができ、スムーズに実習に入れると好評。人材育成と同時に地域貢献も大きな柱に位置付けている」と意欲を見せる。

(瀬上耕明)